

# こども園における自己評価

八尾市立東山本わかばこども園

4:とてもそうだ 3:そうだ 2:あまりそうでない 1:全くそうでない

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	今年度は、保育者の「言葉かけ」に焦点をあて、保育者と子どもが対話をするすることで、子どもの好奇心や探求心を引き出したり、気づきを促したり、自信をもたせたりし、伸び伸びと自己を発揮して園生活を楽しめるように取り組んできた。
	・目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	教育保育計画に基づき月案・週案を立てて日々の保育実践を行っている。保育実践は毎日ダイアリーにエピソードと共に記し、評価改善を図っている。
	・毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	子どもの姿を肯定的に捉え、子どもの気づきや発想を大切に、やってみようと思ったことが実現できるように、環境を整えたり一緒に考えたり、見守ったりしながら、一人ひとりが充実した毎日の中で自己実現できるように援助している。
	・1日の流れ（ディリープログラム等）は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	
	・行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	
	・子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	
	・素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
・子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4		

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	栽培活動、玉ねぎの皮むきなどの給食の手伝い、クッキング保育、食育指導、保健指導など、様々な活動を通して、食や自分の体に興味をもつ取り組みを実践している。 月に1回、火災・地震・防犯等の避難訓練を実施している。訓練の様子をお知らせボードや写真で知らせることで、保護者アンケートによる取り組みに対する評価が、昨年度より高くなった。
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員の 資質向上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	4	保育者のスキルアッププロジェクトとして、「手作り玩具」「音楽」「視聴覚教材の活用」「体を動かす遊び」の4つのグループに分かれて、保育者の資質向上、保育力の向上を図った。 研修に参加した保育教諭が、研修資料に特に心に残った内容をまとめて配架し、研修内容を共有した。
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	3	
職員 運営管理 について	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	園長・副園長・主幹保育教諭・保育教諭・看護師・栄養士等が連携し、園運営にあたっている。 毎年会議計画を見直し、事前に事案を提起し、効率よく話し合いができるよう工夫している。また、報告・連絡・相談を大切に、ICT機器なども活用しながら、情報共有を図っている。
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか	4	
守秘義務 の遵守	・乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか	4	年度初めには、守秘義務・個人情報の適正管理について周知し、閲覧は職員室で行うなど、管理の徹底に努めている。
	・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目	内容	評価	備考欄	
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	地域の自然を活用した保育実践や、他の就学前施設や小中学校、高校との交流・施設活用などを行った。また、今年度は、年長児のお別れ散歩の目的地を愛宕塚古墳とし、地域の観光ボランティアガイドさんも同行してくれ、古墳について教えてもらう予定である。地域の畑でサツマイモ栽培をした後のツルや中学校で栽培していたセンニチコウやコキア、地域の田んぼの稲わらを大量に頂き、保育に活用した。こども園で自然環境を活用した保育実践をしていることを知った人から、自然物を頂く機会も増えている。
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	4	
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互惠性のある交流になるように工夫しているか。	4	
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	4	
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4	
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	3	
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4	
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	毎月「わかばひろば」を開催し、地域の未就園児に遊びの場を提供している。水遊びや体を動かす遊び、行事に由来した遊びの回などが好評である。今年度は高学年児が、自分たちが取り組んでいる歌や踊り正月遊びなどを披露する場も設けた。年齢交流では、在園児と一緒にクラスで遊んだりふれあい遊びをしたりし、利用者からは好評であった。園庭開放も月に2回実施している。
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4	
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4	
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4	
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	4	ホームページにて、各学年の生活の様子や子どもが出会った自然について写真を中心に発信している。
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実に役立てているか	4	
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	4	第三者委員さんに来園していただく機会を設けている。参観後は保護者にアンケートをお願いし、意見を運営改善に生かすようにしている。
		・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか	4	
	施設・設備	・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4	月初日は安全点検の日とし、安全点検チェックリストに沿って園内外を点検している。毎月、危機管理会議にてヒヤリハット事例を共有し、園児が安全に生活できるよう環境の改善を行っている。掲示板は保護者との連絡ツールとしても欠かせないものであるため、日々活用している。
		・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4	
		・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4	
・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか		4		
経理出納	・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4	適切に処理している。	

### <成果>

子どもの主体性や好奇心、探求心等の学びに向かう力や人間性を育むために、保育者の「言葉かけ」が大きな役割をもつと考える。そのため、今年度は、保育者の子どもへの「言葉かけ」とその後の子どもの姿を捉え、子どもの育ちについて考察してきた。また、研究を通して、「言葉かけ」をする際に意識する視点について考えを明確にしたり、子どもとかわる中で保育者が肯定的な言葉を豊富に使えるように、保育者の言葉の豊かさについても探求したりしながら、こども園での生活や遊びがより良いものになるように研究を進めてきた。

研究の中では、保育者の「言葉かけ」は異なる様々な場面においても、子どもの育ちを支える共通の役割をもつことが明らかになってきた。①「子どもの思いや存在を受け止め、安心感を育む役割」。情緒の安定や信頼関係の形成を行い、子どもが自分の感情を理解することにつながっていく。②「子ども同士・遊び・思考をつなぐ役割」。友だち関係が広がり、挑戦したり探求しようとする気持ちが芽生え、達成感を味わったり試行錯誤を経て新たな気づきにつながっていく。③「子どもが考え、選び、自己決定することを支える役割」。考えたり選択したりする経験を経て自己表現が自己実現へとつながっていく。日々の保育の中で、このような保育者の「言葉かけ」の役割を意識しながら取り組み、子どもたち一人ひとりがそれぞれの発達段階に応じた、経験や学びが得られるように実践を重ねてきた。

学期に1回、自由参観を実施し、生活や遊び、給食等の様子を保護者に見ていただいた。また、参加してくださった保護者と子どもたちが触れ合って遊ぶ機会も設けた。普段の子どもの様子や遊びや生活の中でどのような経験をしているのか等、子どもの園での姿や友だちと関わりながら様々なことを学び合っている姿を保護者と共有できるよい機会となった。また、3学期の自由参観では、0歳から5歳全てのクラスの1年間の活動や育ちの様子を見ていただける「ポートフォリオ展」を開催した。自分の子どもの1年間の育ちを振り返るとともに、0歳から5歳までの育ちの過程にも少し興味をもってもらえたようであった。敬老の日のつどいや運動会、生活発表会なども、保護者に加え祖父母の参加もあり、子ども達もたくさんの方に温かく関わっていただく機会になった。

保育者一人ひとりの資質向上を目的に、スキルアッププロジェクトに取り組んだ。自分がスキルアップしたい分野について仲間と共に学び教材を作成するなどして、保育実践に活かした。保育者一人ひとりが主体性を発揮し、仲間と共に協同(対話)して学びを深める取り組みとなった。

### <改善策>

#### ○保育の質の向上について

こども園開園前から今に至るまで、おおよそ2年ごとに研究テーマを変えながら研究に取り組んできた。テーマに沿った日々の保育や振り返り、園内研究会や事例研究会、学習会など、園内で様々な学びの機会を設けてきたことで、保育教諭の自己評価からは、保育者一人ひとりが研究テーマを理解したうえで保育を行い、保育についてもしっかりと語れる知識を身につけていることが伺えるが、その分、自ら求めて園外での研修に参加したり自己研鑽に励もうとする意識があまりみられないという傾向もある。他園の保育を見て他園の保育者と意見を交わしたり、研修に参加して知見を広げることは、園内では得られない学びの機会となるため、たくさんの保育者に園外での研修に参加してもらえるよう啓発していきたい。

#### ○保護者啓発について

各クラスが定期的に作成しているポートフォリオを、3学期の自由参観の際に「ポートフォリオ展」として他学年の保護者も見られるように掲示し、0歳から5歳までの発達や学びの連続性や、非認知能力について保護者啓発を行ったところ、遊びの中の学びに興味をもってくれた保護者が多数いることが、アンケートから分かった。写真や掲示の方法を工夫することで、子どもたちがこども園で遊びを通して様々な学びを得ていることを伝えていけると感じたので、定期的に作成しているポートフォリオも、何を保護者に伝えたいかを明確にしながらか作成していくことができるように、保育者間で意識の共有を図ってきたい。